評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100120
法人名	社会福祉法人 ともの家
事業所名	溝辺ともの家
所在地	松山市溝辺町甲119-1
自己評価作成日	平成26年7月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で、安心して生活ができる環境作りにも心掛けるとともに、健康管理を行いながら、重度化していく利用者のQOL向上に努めている。また、週1回の生け花ボランティアは十年以上継続されており、利用者の生きがいの一つとなっている。今後も、家族や関係者との連携を密に図りながら、利用者の生活が支援できる取り組みを行う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人主催の運動会やクリスマス会にはご家族も招待されている。又、外出時にはご家族にも案内して協力をお願いされている。家族会を兼ねて運営推進会議を行った際には、「親が落ち着いて嬉しい」「あまり来れなくて申し訳ない」「落ち着いてほしい」「看取りをしてもらうので安心」等、ご家族の感想や意見を聞く機会にもなったようだ。来訪の少なめのご家族には電話で報告し、どうしても現状を見てほしい場合は足を運んでもらえるよう伝えておられる。
入居時に、「最期はどうしたいか」を聴くようにされているが、「ここで最期まで」と希望する方が多いようだ。利用者の中には、荷物の中から「尊厳死の意思表示」の署名入り書類が見つかり、ご家族とともにご本人の意思を知ったケースもあった。ご家族が毎日通って最期は泊まり、一緒に見送ったようなケースもある。又、ご家族の事情によっては、職員で通夜を執り行ったこともある。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

サービス向上への3ステップ

事業所名

溝辺ともの家

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

二宮 美和子

評価完了日

平成 26 年 7 月 18 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「いかに障害が重くとも尊厳ある生活を保証する」の理念に基づき、本人の状態を把握しながら、QOL向上に努めている。	
			(外部評価) 法人の方針を理念として居間の壁に掲示し、管理者は、理念についてケアの現場で具体的に伝えておられる。特に看取りの際には、尊厳ある生活について全員で考える機会とされている。又、理事長からは、「笑顔を絶やさず親切に」ということを忘れないよう指導があり、文字にして目につく所に掲示されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の一員であるため、利用者は地区費を収めている。年4回のバザーロビー展を開催している。また、近所のお店(スーパー・理髪店)などを利用しながら交流を図っている。また、夏祭りや散歩など近所へ出ることで、少しでも交流ができるように努めている。	
			(外部評価) 隣のスーパーから食料品や日用品を購入しており、災害時の協力をお願いして、避難訓練時へも参加していただいている。近所の理髪店を利用しており、時間等、事業所の都合に合わせてくださっている。回覧板にて地域の情報を得て奉仕作業等に参加されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域への外出を計画・実践するとともに、社会との関わりを持てるように努めている。また、事業所主催「認知症サポーター養成講座」を実施。地域との連携を目指すよう努めている。今後は、「スリーA」を習得し、地域でのケアに努める予定である。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の現況報告・活動報告などを行っている。また、困難事例についての助言等を実践に生かしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議には、地区の民生委員やボランティアの方が参加されており、事業所から活動報告や困難事例を報告して意見を聞いておられる。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議への参加を求め、介護保険に関する情報や、利用者に関する相談など、協力してもらえる体制に努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>市の広報にボランティアセンターの情報が掲載されていることや、市社協の通信についての情報をいただいた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>主治医や家族と相談し、やむを得ない理由がある場合のみ、家族の同意書を得て、一時的に拘束することがある。いろいろな試みにて、身体拘束ゼロを目指している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ベッドから転落する危険がある方には、畳の上にエアマットと布団を敷いて休めるよう支援されている。かゆみがあり下着に手がいく方には、現在ご家族と相談の上、夜間のみつなぎ着用で対処している。昼間はトイレにて排泄を支援し、清潔保持を最優先にして取り組んでいるところであり、じょじょに状態は改善に向かっているようだ。今後もさらに、利用者の立場に立ち、拘束をしないケアの実践に向けた工夫について考え続けていかれてほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修等を持ちながら、職員の意識向上に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会にて制度についての知識を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分に説明し、理解してもらっている。また、疑問点が生じた場合には、その都度対応できるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時には必ず意見を求め、少しでも利用者や家族の意向が反映できるように努めている。また、面会に来られない家族に対しては、電話にて近況報告するとともに、意向の確認を行っている。必要時には、話し合いを持ち、対処するように努めている。 (外部評価) 法人主催の運動会やクリスマス会にはご家族も招待されている。又、外出時にはご家族にも案内して協力をお願いされている。家族会を兼ねて運営推進会議を行った際には、「親が落ち着いて嬉しい」「あまり来れなくて申し訳ない」「落ち着いてほしい」「看取りをしてもらうので安心」等、ご家族の感想や意見を聞く機会にもなったようだ。来訪の少なめのご家族には電話で報告し、どうしても現状を見てほしい場合は足を運んでもらえるよう伝えておられる。	管理者は、今後の取り組みについて、「家族同士で難儀話でもしませんか」と、気軽に集まるような機会を作っていきたいと話しておられた。ご家族の声を反映した運営を続けていけるよう、工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 事業所の職員会で、意見が上がったことを、毎月の管理者会や主任会を通じて、反映できるよう努めている。	
			(外部評価) 管理者は、職員に「どう思う」と意見を聞きながら取り組みをすすめておられる。法人全体で内・外部研修に取り組んでおられ、外部から講師を招き勉強する機会もある。現在、法人の「事例検討会」に向けて準備をされており、一事例について「気づいた事、対応の反応、場面による状態、職員による違い」等、職員全員が情報収集に取り組んでおられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員との面談を行うことで、職員の状況を把握し、働きやすい環境づくりに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月1回の研修会を開催することで、職員の自己研鑽を求めるとともに、技術の向上を目指している。また、施設外の研修への参加を促し、自主的に学習する機会を作っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 全国組織のシンポジウムに参加したり、他施設との交流を図ることで、質の向上を目指している。また、近隣グループホームのネットワークを利用し、意見交換会を活用している。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) アセスメントを行い、本人や家族との連携を密にすることで、安心して生活できる環境作りに努めている。また、常に様子観察することで、早めの対応ができ、信頼関係を作ることを目指している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所する前に話し合いを持ち、今までの経過や今後の要望などをしっかり把握する。本人・家族の不安の軽減に努め、信頼関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族との話し合いを密に行いながら、必要としている支援内容をしっかりと把握し、不安なく生活できる支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活する中で、協力し合える関係作りに心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と協力し合い、本人を支えていける支援を行っている。家族の思いを受け止め、本人と家族の良好な関係が保てるよう、家族の思いに沿った支援を心掛けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 高齢となり、身体的には交流する機会が少ないため、懐かしい人や場所の話題作りをすることで、タイムスリップできる。また、家族の協力により、自宅で外泊したり、楽しい思い出作りを支援している。 (外部評価) お花の好きな方は、生け花の日を心待ちにされている。生け花ボランティアに来られる方は、運営推進会議に参加してくれたり、外出時には一緒に付き添ってくださっている。管理者は、昼間はなるべく居間で過ごしてもらい、利用者同士がふれ合ってほしいと考えておられ、椅子や家具の配置に工夫を重ねておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 常にリビングで過ごし、家庭的な雰囲気で関わりが持てる援助を行っている。レイアウトを行うことで、視野が変わり、違った会話による利用者同士の関わりができる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 事業所が発行している広報紙配布による。また、年4回行っているロビーバザー展などを利用し、関係が維持できるよう努めている。懐かしく来訪してもらえる関係作りに努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人・家族との話し合いを密に行いながら、常に生活への意向を確認している。困難時は、家族や運営推進会議を通じて相談し、本人の意向に沿える支援に努めている。 (外部評価) ご家族の判断で入居となったような場合は、利用者の納得に至っていないようなこともあるが、管理者は、時間のある時にゆっくりお話を聴くようにされている。職員は利用者との日々のかかわりの中で個々の思いや意向の情報を得て、ご家族に伝えるようなこともあるが、実現することにはむつかしさを感じておられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人・家族への聴き取りを行いながら、生活史を把握できるように努めている。また、新しい情報は、職員で共有できるように記録し、会話に取り入れるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の状況を把握し、職員同志で情報が共有できるように努めている。また、変化あった時には、話し合いを行い、状態の把握ができるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	カンファレンスの際に、本人・家族・関係者の意向を確認し、意向に基づいた計画を作成している。また、変化が生じた場合には、早急に見直しができるよう、職員間での情報交換も密に行うことを心掛けている。	
			(外部評価)		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	日々の経過を記録に落とし、職員や家族が情報共有できるようにしている。職員は個別の記録を読むと同時に、業務日誌に目を通し、一日の実践内容や変化に対して、情報交換できるようにしている。	
			(外部評価)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	状態に応じ、事業所が柔軟に対応していくことで、本人・家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。	
			(外部評価)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	近隣に出かけ、地域の情報が得られるよう取り組んでいる。買い物、理美容、夏祭り、散歩など、地域へ出かけるよう計画している。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医を決定するのは、あくまでも本人・家族であり、家族の希望に沿った主治医と連携を取っている。緊急時や相談時には、主治医への連絡をすることで、本人や家族が望む医療を受けられるよう努めている。	
			(外部評価) 入居契約時、利用者のご家族が希望するかかりつけ医を聞き、連携に努めておられる。通院はご家族が付き添い、通院が難しくなった場合は、それぞれのかかりつけ医から往診可能な医療機関を紹介していただいている。調査訪問日、入居間もない利用者のかかりつけ医が来られて、ご家族と往診の予定や薬のこと等について話し合っておられた。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 常に連携を取っている。管理者が看護師であり、利用者の状況については、主治医や病院と連携し、情報を得ている。また、事業所にも看護師がいるため、勤務時には相談しながら、職員同士で連携を取っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 利用者が入院した際には、病院との連携を密にとり、退院に合わせた話し合いを行っている。退院カンファレンスには、主治医同席の上、退院後の協力をお願いしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 医療依存度の高い利用者が多くなり、看取りが多くなってきた。主治医と利用者家族、管理者とのカンファレンスを早急に行い、方向性を確認している。家族や本人の意向を確認した上で、ケアプランを変更・作成し、意向に応じたケアができるよう努めている。	
			(外部評価) 入居時に、「最期はどうしたいか」を聴くようにされているが、「ここで最期まで」と希望する方が多いようだ。利用者の中には、荷物の中から「尊厳死の意思表示」の署名入り書類が見つかり、ご家族とともにご本人の意思を知ったケースもあった。ご家族が毎日通って最期は泊まり、一緒に見送ったようなケースもある。又、ご家族の事情によっては、職員で通夜を執り行ったこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の予測できる急変時については、連絡方法や手順が理解できている。救急時の応急手当てについては、各自勉強会等を通じて学習している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を行い、日中時と夜間時の対応について訓練をしている。地震の対応、火災の対応については、消防職員による講話を依頼し、指導を受けている。地域の協力については、隣近所のみであり、もう少し協力体制を整えたいと思っている。 (外部評価) 消防署立ち会いの避難訓練時に、地震・水害・火災の対応マニュアル作成の指導があり、事業所では、具体的な災害マニュアルを作成して、職員が具体的にどう動けばいいのかが分かり易く示すことが必要と考慮してもらった。事業所のすぐ上に池があり、決壊した場合は八白公園に避難することを申し合わせている。又、事業所独自で、毎月避難訓練を行っており、職員の訓練と利用者の意識付けになっているようだ。最近、事業所地域では台風による停電があり、LEDの懐中電灯とランプが役に立ったようだ。	管理者は、火災を想定した場合、「調理室から遠ざかっていくような避難経路を確保したい」と話されていた。又、地域との連携についても、協力体制の必要性を感じておられた。今後も、立地条件等を踏まえて利用者、職員の安全や安心に向けた取り組みをすすめていかれてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員一人ひとりが気をつけるように徹底している。わかりやすく言葉で説明しながら、自尊心を傷つけない対応を心がけている。 (外部評価) 言葉遣いについては、「くだけた言い方」「きちんとした言い方」等、利用者一人ひとりに応じて使い分けている。又、毎日の生活リズムについても、今までの過ごし方やご本人の希望に沿うように心がけておられる。利用者の近くで申し送りをしないことや、共同のトイレの前の居室のみ暖簾をかけてプライバシーへ配慮されている。「夜間は絶対トイレに行かない」という方には、濡れることを前提に洗濯や防水カバー等で対応されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 常に本人の意向や家族の意向をお聴きしながら、生活してもらうよう努めている。希望することが実現不可能であることも多く、その都度話している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床の時間から、その人その人で違っている。無理に起こすのではなく、本人の意向を優先している。食事だけでなく、おやつに関しても、時間は本人のペースに任している。また、入浴や行事についても、本人の意向に沿って行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その日の洋服については、どれを着たいかを確認し、その人に合った格好をしてもらっている。整髪やカラー、カットについては、本人と相談し、近所の理髪店に依頼している。クリスマスにはブーツや洋服のプレゼントを用意している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) できる利用者には、野菜切りや盛り付け、食器拭きなどを手伝ってもらっている。能力的には2名が可能であるが、気分のムラがあるため、その時その時に応じてできる事をしてもらっている。	
			(外部評価) 一部法人厨房から食事が届くようになっている。下ごしらえ等、得意な方もおられ、競う場面が見られることもあるようだ。食事時の姿勢にも気を付けており、足置きがあちこちに準備されていた。できるだけ自分で食べられるように支援されており、手が汚れたら熱いおしぼりを用意して渡しておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 疾病がある利用者に関しては、主治医と相談の上、水分摂取量を制限したり、確保したりしている。現在、食事が経口摂取できなくなった利用者があり、摂取量、尿量をチェックしている。また、体重や状態に応じて、個々の量を増減している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、必ず口腔ケアを行っている。義歯を洗浄し、口腔内のうがい、自歯磨きを徹底している。寝たきりで、うがいが困難な利用者には、くるリーナと歯間ブラシを使用し、口腔ケアを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>トイレ誘導表を活用している。成果として、①パットの削減ができた②利用者の排泄パターンの把握ができ、トイレでの排泄が可能となった③排泄後、必ず清拭や陰部洗浄を行うことで、尿臭や帯下が軽減した④尿意のない利用者が声かけにてトイレに行くことができるようになった⑤布パンツに移行できた。</p> <p>(外部評価)</p> <p>以前は排泄に関心が薄く、おむつやパッドに頼っていた方も、職員が利用者毎のパターンに合わせてトイレ誘導することで、布パンツでの対応が可能となったケースがある。又、排泄後の清潔にも気を付け、毎回あたたかい布で清拭しており、「温かくて気持ちがいい」と喜ばれるようだ。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>医療と連携しながら、個々の便秘対策に取り組んでいる。疾病に応じた対応が必要であり、状況におうじた対処法を行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ある程度は計画しているが、その時の本人の状態や気分により柔軟に対応している。入浴にて、清潔維持ができ、心地よい気分が味わえるよう工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>散髪した後、お風呂に入れるように散髪店に時間を合わせてもらっている。風呂上がりには、「はい、ジュース」と手渡されていた。時々、道後温泉の引き湯の「友輪荘」に出かけており、一般の方と一緒に入浴を楽しめるよう支援されている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>個々の状態により、柔軟に対応できている。常に、本人の状態把握ができるよう努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬状況については、常に職員が理解できるようケース記録に添付している。業務日誌や毎日の申し送りの中で、服薬の変更、本人の状態について確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の得意分野において活躍してもらえる場を設けている。皆で一緒に楽しんでもらえる環境作りに努めている。週1回の生け花教室では、熱心に取り組んでいる姿が見られる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) できるだけ外出行事ができるよう計画・実施している。事業所全体の遠足だけでなく、事業所単独での外出行事による楽しみを多く作っている。家族やボランティアの協力にて、外食・温泉など楽しい思い出作りに努めている。また、散歩や日光浴は日常的に行っている。 (外部評価) 隣のスーパーには、利用者に声をかけて一緒に買い物に行かれている。衣類の買い物は、希望をお聞きして個別に出かけられるよう支援されている。外出の際には、ご家族やボランティアの方にも声をかけ、参加していただいている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金に関しての執着心が強い利用者もおられ、所持することは困難であるが、外出時などでは、楽しみのために使うことを説明し、理解してもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族への電話については、要望あれば応じている。また、近況報告するための葉書や年賀状など、知人や家族との関わりが継続できる支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>音楽を流したり、季節の花を飾ったりすることで、居心地よく過ごしてもらえるよう工夫している。また、レイアウトを行うことで、新鮮な感覚で過ごせるようにしている。数か所に乾湿計を設置し、温度管理を行い、過ごしやすい環境作りに努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>民家改修型の事業所で、玄関には利用者の作品や、元利用者のちぎり絵の作品を額縁に入れて飾っておられた。又、磨かれた遺品の姿見等が置かれてあった。居間をみなが集う場所として、居心地のよい空間にしたいと、管理者は空間作りに取り組みされており、事務所スペースを隅のコーナーにして、以前、吹き抜けだった居間の天井は温度管理の効率を考え閉じておられた。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>日中を過ごすリビングのレイアウトを常に考えている。ソファで横になったり、デッキでティタイムを楽しむことができるよう取り組んでいる。安楽に過ごせ、好きな場所で好きな時間が過ごせる工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>車椅子利用者が多いので、出入りしやすい配置にしている。仏壇を置いたり、馴染みのタンスを使っている利用者もいる。また、重度化している利用者の居室には、思い出の写真パネルを作り、常に家族の顔が見えるように工夫している。両親・妻の遺影を掛けている男性もいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室は全室畳となっており、利用者が入れ替わるたびに畳と壁紙を新しくされている。趣味だったCDやテープとプレーヤー、カメラ等、又、仏壇や両親の遺影を持って来られている方もいる。ご家族の写真や亡くなった配偶者の写真は、ご本人の見える場所に置いておられた。昔から使っていたタンスや小物入れ等も持ち込まれている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>手すりの設置位置を変えたり、環境整備を行うことで、安全に生活できる。また、できることを増やす援助を行いながら、QOLの向上を目指している。</p>	